東京国立博物館ニュース

第687号
展示と催し物案内

2008 2/3 月号

2 ⊙ 陽明文庫創立70周年記念特別展
「宮廷のみやび──近衛家1000年の名宝」

3 ⊙ 平城遷都1300年記念「国宝 薬師寺展」　4 ⊙ 桜

5-11 ⊙ 平常展見どころ案内2008年2月・3月
重文 龍濤螺鈿稜花盆／特集陳列「館蔵能面名品撰」／
特集陳列「OYATOI──フォンタネージとラグーザ」／
特集陳列「東京国立博物館コレクションの保存と修理」／
特集陳列「お雛様と人形」／特集陳列「山本達郎氏寄贈の
東南アジア彫刻コレクション」／国宝 善無畏像／黒楽茶碗 銘尼寺

12 ⊙ 東洋館の平常展　13 ⊙ 教育普及事業

14 ⊙ INFORMATION　15 ⊙ TOPICS

16 ⊙ 2008年2月・3月の展示・催し物

陽明文庫創立70周年記念特別展

宮廷のみやび
近衛家1000年の名宝

Courtly Millennium—Art Treasures from the Konoe Family Collection

第1章 宮廷貴族の生活
国宝『御堂関白記』藤原道長筆
全期間展示

「この世をば我世とぞ思ふ望月の欠けたることもなしと思へば」の歌で知られる藤原道長（九六六～一〇二七）の自筆の日記が『御堂関白記』です。その子孫である近衛家に伝わった自筆本十四巻は、公家の日記として最古の例です。記事は、季節や日の吉凶などを記した具注暦（ぐちゅうれき）とよばれる漢文の暦の余白に書いていますが、掲載の部分は、奈良の春日社に奉幣使として出発した頼通を案じて詠んだ和歌を、表に書ききれず、紙の裏に書いています。日記全体にわたって、誤字、当て字、脱字や、抹消・訂正した跡がたくさん見られ、道長の豪放な性格がうかがえます。（高橋裕次）

◉『御堂関白記』（部分）藤原道長筆　平安時代・長保6年（1004）2月6日条（紙背）京都・陽明文庫蔵
日記の中、和歌が記されているのは2ヵ所のみです

第4章 家凞の世界Ⅱ
春日権現霊験記絵巻 巻第12
1月29日（火）～2月24日（日）展示

春日権現霊験記絵巻は、藤原氏の氏神春日明神の由来や霊験奇瑞をあらわした鎌倉時代を代表する絵巻として知られています。春日社に奉納されたこの絵巻は、厳重に保管されていましたが、元禄十四年（一七〇一）四月に近衛基凞、家凞、家久の近衛家三代の嫡男が絵巻拝観の好運をものしています。その時の感激を基凞は「感涙袖を沾す（うるお）」と日記に吐露しています。

本作は、その家凞の命により渡辺始興が華麗に絵を模し、詞書を家凞自らが記して、原本に極めて忠実に再現されています。模本といえども江戸時代の最も優れた絵巻の一つといっても過言ではないでしょう。（松嶋雅人）

春日権現霊験記絵巻 巻第12第3段（部分）詞書・近衛家凞筆　絵・渡辺始興筆
江戸時代・享保20年（1735）京都・陽明文庫蔵
学生（がくしょう）恵珍は日課の春日詣で、地蔵菩薩と出会う

第6章 伝世の品Ⅱ-1
粘葉本和漢朗詠集 伝藤原行成筆
全期間展示

中国から輸入された美しい料紙を二つ折りし、その折目近くを糊代にして貼りあわせた粘葉（でっちょう）装の冊子本に『和漢朗詠集』を書写したものです。『和漢朗詠集』は、藤原公任が朗詠に適した漢詩文の秀句と和歌を編集したもので、詩歌の朗詠が盛行した平安時代において、饗宴の席での最適のテキストでした。さらに、身の回りを飾る調度手本としても、漢字と仮名の両方を備えていることから書の手本としても重用されました。洗練された張りのある筆線で書かれており、書と文学と料紙工芸との調和された平安時代屈指の古筆の遺品です。明治十一年（一八七八）近衛忠凞より皇室に献上されました。（島谷弘幸）

粘葉本和漢朗詠集　伝藤原行成筆
平安時代・11世紀　東京・宮内庁三の丸尚蔵館蔵　書と文学と料紙工芸との調和

展覧会データ

陽明文庫創立70周年記念特別展
「宮廷のみやび—近衛家1000年の名宝」
2008年1月2日（水）～2月24日（日）
東京国立博物館
平成館特別展示室第1室～第4室

主　催：東京国立博物館、財団法人陽明文庫、NHK、NHKプロモーション
後　援：文化庁
協　賛：日本写真印刷、三井住友海上火災保険
観覧料：一般1,400円（1,000円）　大学生・高校生900円（600円）中学生以下無料
※（　）内は20名以上の団体料金。障害者とその介護者1名は無料です。入館の際に、障害者手帳などをご提示ください。
※会期中展示替があります。

平城遷都1300年記念

国宝 薬師寺展

展覧会データ

平城遷都1300年記念　国宝　薬師寺展
2008年3月25日(火)～6月8日(日)
東京国立博物館 平成館特別展示室第1室～第4室

主催：東京国立博物館、法相宗大本山薬師寺、NHK、NHKプロモーション、読売新聞社　**後援：**文化庁、奈良県、平城遷都1300年記念事業協会、東京都教育委員会、埼玉県教育委員会、千葉県教育委員会、神奈川県教育委員会　**協賛：**王子製紙、キヤノン、大日本インキ化学工業、トヨタ自動車、光村印刷
観覧料：一般1,500円(1,300円／1,200円)、大学生1,200円(1,000円／900円)、高校生900円(700円／600円)
※中学生以下は無料、年齢の分かるものをご提示ください。(　)内は、前売り／20名以上の団体料金。障害者とその介護者1名は無料です。入館の際に、障害者手帳などをご提示ください。
お問い合わせ：03-5777-8600(ハローダイヤル)
ホームページ：http://yakushiji2008.jp/ ※会期中展示替があります。

展覧会のみどころ

薬師寺展のみどころは、①薬師寺に伝来した国宝のうち三重塔、東院堂、金堂本尊薬師如来坐像、仏足跡歌碑を除く作品が出品される、②日光・月光両菩薩および聖観音菩薩立像をあらゆる角度から鑑賞できる、③その他、出土品、塔の初層に安置されていた塑像断片等が揃い、創建期の薬師寺の全貌を見ることができる、④国宝慈恩大師像に関わる慈恩会、国宝吉祥天像を前にして行なわれる吉祥悔過の映像により、薬師寺の行事、信仰を目の当たりにすることができる、などがあげられます。

上：◉月光菩薩立像
飛鳥(白鳳期)または奈良時代
薬師寺蔵 ©飛鳥園

左：◉月光菩薩立像 右斜背面
飛鳥(白鳳期)または奈良時代
薬師寺蔵 ©飛鳥園

日光・月光両菩薩立像、揃って寺外初公開

特に金堂本尊両脇侍の日光・月光両菩薩像が揃って寺から出るのは、初めてのことです。お寺ではいつも拝観することができますが、三尊が並んで安置され、それぞれ光背が背後に立つので、限られた角度からしか拝することができません。また、台座と合わせて高さ三メートル七〇センチを越す大きな像が壇の上に安置されるため低い位置から見上げることになります。照明は自然光が頼りなので、天候によって見え方が変わります。これらは信仰の対象としてお寺に安置されるのですから当然のことです。

聖観音菩薩立像(模造)による照明実験

これまでにない位置から見る薬師寺の至宝

今回の展示では光背を付けず、日光・月光両菩薩像を離して展示することでそれぞれ三六〇度の視野を確保します。また、両像を少し高い位置から御覧いただけるよう、壇を設置します(スロープになっているので車椅子でも観覧可能です)。そして、お像のもっとも良い表情を常に御覧いただくため、照明を工夫します。

日光・月光両菩薩像、聖観音菩薩像は、彫刻として世界の至宝と言って過言ではありません。その造形を余すところなく御鑑賞いただけるまたとない機会です。ぜひ御来館ください。　(浅見龍介)

◉薬師三尊像(薬師寺にて)　飛鳥(白鳳期)または奈良時代
※薬師如来坐像は出品されません

関連事業

記念講演会

① 4月12日(土)
第1部：河瀬直美氏(映画監督)、第2部：安田暎胤師(薬師寺管主)
② 4月19日(土)
第1部：東野治之氏(奈良大学教授・日本古代史)、第2部：山田法胤師(薬師寺副住職)
③ 5月10日(土)
第1部：金子啓明(東京国立博物館特任研究員・彫刻史)、第2部：山田法胤師(薬師寺副住職)
④ 5月24日(土)
第1部：藤井恵介氏(東京大学大学院准教授・建築史)、第2部：松久保秀胤師(薬師寺長老)

開催時間：13:30～16:00(開場13:00)　＊途中休憩あり　**会場：**平成館大講堂
定員：各380名(事前申込制)　**聴講無料**(ただし「国宝 薬師寺展」観覧券が必要)
申込方法：往復はがきの「往信用裏面」に郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号・聴講希望する講演会(①～④)を、「返信用表面」に郵便番号・住所・氏名を明記の上、下記までお申込ください。1枚の往復はがきで1つの講演会につき1人の申込可。応募多数の場合は抽選の上、受講券をお送りいたします。
申込先：〒113-8799 本郷支店私書箱第25号「国宝　薬師寺展」第◎回講演会係 ※ご希望の講演会(①～④)をご記入ください。
申込締切：①3月27日(木)、②4月3日(木)、③4月21日(月)、④5月8日(木)必着

薬師寺展ガイダンス

会期中の週3日程度、1日数回(本誌巻末のカレンダー、当館ウェブサイトでご確認ください)各回約20分程度、薬師寺のお坊さんが展覧会の紹介をします。
会場：平成館大講堂　**定員：**380名(当日先着順)　**聴講無料**

国宝薬師寺展開催記念　宝物特別公開　薬師寺東京別院にて
「もうひとつの薬師寺展(仮称)」

薬師寺東京別院　2008年3月25日(火)～6月8日(日)　9:00～17:00
会期中休みあり。詳しくは下記へお問い合わせ下さい。
重文「十一面観音菩薩立像」奈良時代・8世紀(薬師寺蔵)ほか、彫刻絵画、書跡など15件を特別公開いたします。
〒141-0022 品川区東五反田5-15-17　TEL 03-3443-1620
JR山手線五反田駅より徒歩7分

＊◉は国宝、◎、「重文」は重要文化財、○、「重美」は重要美術品を表わします。とくに表記のないものは東京国立博物館蔵です

桜

春も千々の花盛り

東京国立博物館では、三月中旬から四月にかけて、桜の花や桜の季節にちなんださまざまな作品を数多く陳列します。全国各地に桜の名所は数多くありますが、博物館も観桜の名所のひとつなのです。本館陳列室をめぐり歩いて、さまざまな桜の花を愛でていただき、春の訪れを寿いで下さい。

花といえば桜をさすように、桜は古来、日本の人びとにもっとも親しまれてきた花のひとつです。花開く姿かたちの愛おしさ、そして舞い散る風情に魅せられた人びとの心によって、桜は詩に詠われ、歌に唄われ、絵画、漆工、染織などのさまざまな華麗な意匠として、かたち造られることとなりました。桜花をたずね歩いて観賞することを桜狩ともいいますが、この季節の当館では、まさに桜狩さながら、雪のようにたおやかな桜のさまざまな姿をご覧いただくことができるのです。

（松嶋雅人）

本館2室　国宝室　3月25日（火）～4月20日（日）
◉花下遊楽図屏風（部分）　狩野長信筆
安土桃山～江戸時代・17世紀

本館10室　浮世絵と衣装
2月19日（火）～4月6日（日）
小袖 鶸色紋縮緬地源氏雲桜模様
江戸時代・18世紀

本館8室　暮らしの調度　1月16日（水）～4月20日（日）
桜蒔絵十種香箱　江戸時代・19世紀

本館10室　浮世絵と衣装　3月11日（火）～4月6日（日）
北廊月の夜桜　歌川国貞筆　江戸時代・19世紀

本館8室　書画の展開　3月18日（火）～4月20日（日）
観桜図屏風（部分）　住吉具慶筆　江戸時代・17世紀

春の庭園開放の御案内

恒例の春の庭園開放。
本年は3月15日（土）～4月20日（月）、
時間は10時～16時です。

由緒ある5棟の茶室が点在する本館北側の庭園を、自由に散策してみませんか。ソメイヨシノをはじめ、オオシマザクラ、ショウフクジザクラ、枝垂れのエドヒガンザクラなど、10種類の桜が次々と開花いたします。天候により中止になる場合もありますので、どうぞお天気のよい暖かい日を選んでお出かけください。

※入園無料（ただし、当日の入館料は必要です）。

これだけは見逃せない！おすすめのこの1点

身をよじる龍・うねる波濤・鬼気迫る雲気

重文 龍濤螺鈿稜花盆

1月2日(水)～1月27日(日)・2月13日(水)～3月2日(日)
東洋館第5室　中国漆工

貝は、祭器や日用の器、装身具として、古代より人々の生活を支えてきました。それは海に親しい人々にとって、貝が食用以外にも身近な存在であった証といえます。なかでも、夜光貝や鮑貝など、巻貝の一種の表皮を剝がしたものを磨くと真珠のように光輝く性質を利用して、木地や漆地、もしくは金属製の器物に装飾を施す「螺鈿」は、東アジアに特有のものです。中国の螺鈿を代表するものに、たとえば私たちのよく知る、正倉院宝物「平螺鈿背八角鏡」があります。高度な技術に裏打ちされた美しい鏡は、きっと天皇や貴族たちを魅了したにちがいありません。そのような唐時代の螺鈿の技法は、奈良時代以降の日本の漆工芸に大きな影響を与えたと考えられています。

しかし、中国の漆工芸の世界において、螺鈿の技術が本領を発揮するのは元時代といえます。貝片をより薄く、小さく切り出す高度な技術によって、絵画のように繊細な表現が可能になりました。この龍濤螺鈿稜花盆は、その元時代の螺鈿を代表する作品のひとつです。まるで金属器のように鋭い八稜花の縁が全体を引き締め、緊張感のある姿の黒漆の盆に、口を大きく開けて、火焔宝珠を睨む螺鈿の龍が所狭しと身をよじっています。その身体は、鰭や鱗の細部に至るまで、一つ一つ非常に小さな貝片で表現されています。また、背景には、糸のようにごく細い貝片や砂のように細かい貝片を連ねることによって、しぶきをあげてうねる波濤と鬼気迫る雲気が見事に表され、主文様である龍の躍動感を引き立てています。さらに驚くことに、緑色の鱗、薄紅色の背びれ、赤く血走った眼球といったように、異なる色の貝片を用いて、細部を色分けして表わしているのです。

二本の角と五爪を持つ龍は、元の時代、皇帝だけに許された高貴な図案です。この盆も、かつて広大な中国を席巻した遊牧民の国、モンゴル帝国の皇帝のそばにあったのでしょうか。この機会に是非足をとめて、この作品の放つ力強さと圧倒的な存在感を堪能して頂けたらと思います。　（三笠景子）

◎**龍濤螺鈿稜花盆** 木製漆塗 中国 元時代・14世紀 径33.0cm　鱗1枚1枚に施された毛彫りの細かさには、ため息が出るばかりです

注目の特集

本館特別1室

日本人の美意識と深く関連する能面の抑制された美

特集陳列

「館蔵能面名品撰」

2月5日(火)～3月2日(日)

能面 大天神
室町時代・15～16世紀

能面 猩々
室町時代・15～16世紀

能面 大飛出
室町時代・15～16世紀

能面 翁
室町時代・15～16世紀

ここに写真を掲げた面はいずれも金春座伝来。彫りが深く、表情に生気がある。若曲見の面裏上方に、「平泉寺」「熊太夫作」と刻まれる。平泉寺は福井県勝山市にある寺。梅若家所蔵の阿古父尉の裏に越前国熊太夫の名とともに文明十三年(一四八一)と記されており、同一人物の作なら、この若曲見も十五世紀後半頃の作となる。

能面 若曲見(表)
室町時代・15～16世紀

能面 若曲見(裏)
室町時代・15～16世紀

能面のような顔とは、無表情な顔のことを指すことばですが、実際、小面(こおもて)や中将など能の男女の面の表情は、喜怒哀楽がはっきりしません。一つの面で感情の変化を演じるためでもありますが、能を大成した世阿弥は、感情を決まったしぐさで示し、抑制して表現することを理想としました。能面を着けず直面(ひたおもて)で演じるときも、表情を変えることは戒められました。これは日本人の美意識と深く関連しており、今でも感情を顔に出すのはあまりよくないこととされ、嬉しい時でさえ喜びを噛みしめるのが奥ゆかしいと評価されるのに通じます。表情豊かな方が感情移入しやすい、つまり見て楽しいのに対し、能面は少し取っ付きにくいところがあるかもしれません。

さて、能面は現在二百種類ほどありますが、世阿弥のころはわずかでした。室町時代から桃山時代までに多くの面が創作され、江戸時代以降はこれを模作するようになりました。特に観世(かんぜ)・宝生(ほうしょう)・金春(こんぱる)・金剛(こんごう)・喜多(きた)といったシテ方の宗家に伝来した、主に室町時代までに作られた面を本面と言って尊重し、忠実な模作が多数作られました。本面の傷まで写す忠実な模作ですから、その時代判定はなかなか困難です。能面を鑑賞する難しさの一因も、そこにあります。

しかしながら、当館が所蔵する二百点を越える能面のうち、金春座伝来の面四十七点の中に出色の出来栄え、型にはまらない造形に力のある面があります。面の裏も独特の彫り口がみられ、創作の時代の所産と思われます。今回の展示ではこれらを含む、安土桃山時代までに作られたと考えられる面を中心に、近世の名工として知られる是閑と河内の作をあわせて展示します。

能面は演者が着けて演じてこそ真価を発揮するものですが、彫刻として見ても十分魅力があります。ただしその魅力は、奥ゆかしいものなので、見るほうの努力も必要なのです。(浅見龍介)

本館2階特別2室

お雇い外国人による美術教育を紹介

特集陳列「OYATOI——フォンタネージとラグーザ」

2月5日(火)～3月16日(日)

画家フォンタネージ(Antonio Fontanesi 一八一八～一八八二)、彫刻家ラグーザ(Vincenzo Ragusa 一八四一～一九二七)は、本邦初の官設美術教育機関である工部美術学校教師として、明治九年(一八七六)日本政府により招聘された「お雇い外国人」です。彼らのアカデミックな教育は、浅井忠(一八五六～一九〇七)、小山正太郎(一八五七～一九一六)、藤田文蔵(一八六一～一九三四)などを輩出し、日本近代美術の発展に大きな影響を与えたことで知られています。

今回は、ラグーザが教材としてイタリアから持参した版画類、油彩画をはじめ、フォンタネージ自身の油彩画、教え子たちの習作や作品をあわせてご紹介いたします。一部はラグーザが明治十五年(一八八二)、イタリアへ帰国直前に当館に寄贈した初出展の作品です。「お雇い外国人」が熱意をもって行なった教育現場を彷彿とさせる作品の数々をお楽しみください。

(土屋裕子)

人物素描 紙・コンテ 作者不詳 19世紀 フォンタネージの指導によると思われるアカデミックなコンテ素描

ローマの勝利者 銅版画 作者不詳 19世紀 ラグーザが教材に使用したものとみられる。建造物の立体装飾を版画にしたもの

平成館企画展示室

保存と公開という博物館の役割の現場をご覧ください

特集陳列「東京国立博物館コレクションの保存と修理」

2月13日(水)～3月23日(日)

東京国立博物館では、毎年当館所蔵文化財を長く保存するための修理を数多く手がけています。そしてそのような修理の様子をご紹介するため、特集陳列「東京国立博物館コレクションの保存と修理」を開催してきました。八回目を迎える本年は、平成十八年度に修理した作品を中心として二十件程度を展示します。

陳列にあたっては、できるだけ多くの修理作品をご覧いただき、同時に様々な分野、形態、技法の作品を展示するように企画しました。また個々の作品を保存・修理するなかで得られた情報、修理方法や材料の選択などにもスポットをあて、関連資料とあわせてご紹介する予定です。文化財の修理とはどのようなものなのかをお知りいただき、博物館の果たしている役割についてご理解をいただければと考えています。また毎年好評の保存と修理の現場をめぐるバックヤードツアーや、座談会も開催します。併せてご参加ください。

(冨坂賢)

菩薩立像(修理後) 飛鳥時代・7世紀 現存例の少ない飛鳥時代のクスノキ材による一木彫像

神扇(修理後) 琉球 第二尚氏時代・18世紀末～19世紀 オヤノロの持つ神扇で、骨は竹製、親骨は木製。表に太陽に鳳凰、裏には太陽と牡丹、蝶、瑞雲を描く

■関連事業

1. 見学ツアー「保存と修理の現場へ行こう」

一般の方を対象とした、文化財の保存と修理についての解説および修理室の見学ツアーを行ないます。今回は、考古遺物の修理準備や油彩画のクリーニング作業を中心にご案内します。

対象：一般

日時：第1回 2月20日(水) 13:30～15:50
第2回 2月21日(木) 13:30～15:50
[第1回・2回とも内容は同じです]

会場：小講堂、実験室、修理室等 定員：各回30人(事前申込制)

申込方法：往復はがきまたは電子メールで希望日、郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号を明記の上、お申込ください。

＊1枚のはがきで、1人1回分のみ申し込み可能。

＊応募多数の場合は、抽選の上2月15日(金)頃までに参加通知をお届けします。

申込締切：2月5日(火)必着

申込先：〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9 東京国立博物館教育講座室「見学ツアー」係
edu@tnm.jp

2. 座談会「文化財を運ぶ」

日時：2月16日(土) 13:30～15:00(開場13:00)
会場：平成館大講堂
定員：380名(当日先着順)
出席者：海老名和明氏(日本通運美術品事業部技術顧問)
神庭信幸(当館保存修復課長)
聴講無料(ただし当日の入館料が必要です)

3. ギャラリートーク(列品解説) 修理品等の解説

2月13日(水)、26日(火)、3月4日(火)、11日(火)、18日(火)の14:00～

＊集合場所等は本誌16ページの「2月・3月の展示・催し物」参照。

本館特別1室

幻の絵巻

特集陳列「絵巻――模本が伝える失われた姿」

3月11日(火)～4月6日(日)

王朝貴族の恋物語から寺社の由来、高僧の生涯、歴史上の著名な合戦など、世俗的なものから宗教的なものまでさまざまな物語を、ストーリー性のある文章とそれに対応する絵で構成した絵巻物。平安時代以降、やまと絵の発達とともに多様な展開を遂げ、多くの作品が作られてきました。しかしそれらの中には災害や戦火で、全てあるいは一部が消失してしまったものもあります。

この展示は、後世の画家による模本を通じ、そうした失われた絵巻の世界に思いを馳せていただこうとするものです。模本というと普段は一段低く見られがちですが、文化財を伝えるという観点においては、とても貴重な存在です。失われた絵巻の世界とともに、模本という独特の世界もお楽しみください。

（沖松健次郎）

大山寺縁起絵巻（模本） 堀端文蔵他模
江戸時代・天保2年（1831）
原本は室町時代・応永5年（1398）了阿筆。もと10巻の大部な絵巻だったが、昭和3年（1928）に焼失

本館14室 工芸

愛らしくも繊細な造形

特集陳列「お雛様と人形」

2月26日(火)～4月6日(日)

毎年当館では、三月三日のひなまつりにちなんで、雛人形をはじめ日本の伝統的な人形の数々を展示しています。今年は、恒例の雛檀のほか、嵯峨人形、衣裳人形、地方の雛人形などを特集します。江戸時代に、嵯峨の仏師が手遊びではじめたといわれる嵯峨人形は、重厚に彩色された仏像の衣のような衣裳が特色です。人形の姿はより人間の似姿に近づけられ、ミニチュアのきものを着せた衣裳人形へと発展しました。ひなまつりに町方で飾られた衣裳人形、寛永雛や享保雛などは、京都や大坂、江戸が製作の中心でしたが、そのほかの地域でも、地方色ゆたかな人形が作られました。江戸時代に生まれ人々にいつくしまれた愛らしく繊細な造形をお楽しみください。

（小山弓弦葉）

衣裳人形 鶴亀 江戸時代・19世紀
紅縮緬の振袖に金襴の裃姿の愛らしい少年像。
鶴と亀の作り物には長寿を願う思いがこめられています

本館16室 歴史資料

「歴史を伝える」シリーズ

特集陳列「東京帝室博物館歴史部の変遷」

2月19日(火)～3月30日(日)

明治六年（一八七三）に博物局（当館の前身）が設置した考証課は、史伝課を経て、明治二十二年の帝国博物館の開館により歴史部となりました。史伝課は「史伝上ノ疑ヲ解ク可キモノ又一日シテ了解シ難キモノノ図説ヲ作ル事」を行ない、歴史部は、「時世ノ沿革ヲ徴スヘキ古今ノ物品ヲ蒐集陳列保管シ及ヒ之ニ関スル編著ノ事ヲ掌ル」ものでした。しかし昭和十二年の帝室博物館の大改正は、歴史部を廃止し、その列品を分解して、古美術の中に編入したのです。当時の研究員は「資料の文化史的価値を無視した分類」と書いています。過去の資料をみると、作品の収集、分類、展示が、どのような方針で行なわれていたかが知られます。今回、歴史部の変遷をご紹介いたします。

（高橋裕次）

歴代服装人形（生人形） 明治40年（1907）頃 大村彦太郎氏寄贈
この人形は、歴史部の考証により制作、陳列されました

東洋館第3室　東南アジア彫刻

東洋史研究泰斗のコレクション
特集陳列「山本達郎氏寄贈の東南アジア彫刻コレクション」

2月13日(水)～5月6日(火・休)

当館では平成十三年度(二〇〇一年十月)に、東洋史の研究者で文化勲章を受章された山本達郎氏(一九一〇～二〇〇一)の所蔵する日本、中国の美術工芸品のご寄贈を受けました。東京大学、国際基督教大学教授を歴任した山本先生のご研究は、東南アジア、インド、中国の歴史、さらに世界史全体へも目を向けられた広範かつ深遠なものでした。

昨年度、山本先生ご自身が生前に収集された東南アジア、南アジア、中国などの彫刻、絵画計二十一点をご寄贈いただく運びとなりました。作品は、先生の生前のご研究同様、幅広い地域、時代の作品で構成されていますが、なかでも東南アジアに最も大きな比重が置かれています。これらの作品を通して、アジア諸国の歴史と美術により多くの興味と関心を持っていただければ幸いです。

(小泉惠英)

浮彫男女像・満瓶セーマー石
タイ、ドヴァーラヴァティー時代・8～10世紀
山本達郎氏寄贈　セーマーとは俗界と聖域を区別する結界石で、両面に浮彫が施されている

東洋館第4室　中国考古

鏡の文様と銘文をよみとく
特集陳列「古代中国の鏡」

2007年12月4日(火)～2008年1月27日(日)・2月13日(水)～3月2日(日)

方格規矩蟠螭文鏡　中国 前漢時代・前2世紀
宇宙の構造を表わした文様です。詳しくは会場で

銅、錫、鉛の合金である青銅は、本来は金色ないし銀色を呈し、磨くとものの姿をよく映します。このためガラス製の鏡が普及する以前は、世界各地で青銅製の鏡が使用されました。青銅鏡では、姿を映す面、すなわち鏡の正面は平滑で、鏡の背面には装飾を施すことが一般的です。古代中国の鏡の背面には、幸福をもたらすめでたい図柄や銘文が表わされています。

今回は、戦国時代から唐時代までの鏡二十枚と鏡の鋳型一個を展示し、写真入の解説パネルで文様や銘文の意味を説明します。宇宙の構造を表わした文様もあれば、いかめしくもユーモラスな神様や霊獣の姿、長寿や出世への願望を率直に表わした銘文などもあります。独特の趣をもつ古代中国の鏡の世界をお楽しみください。

(谷豊信)

東洋館第8室　中国書跡

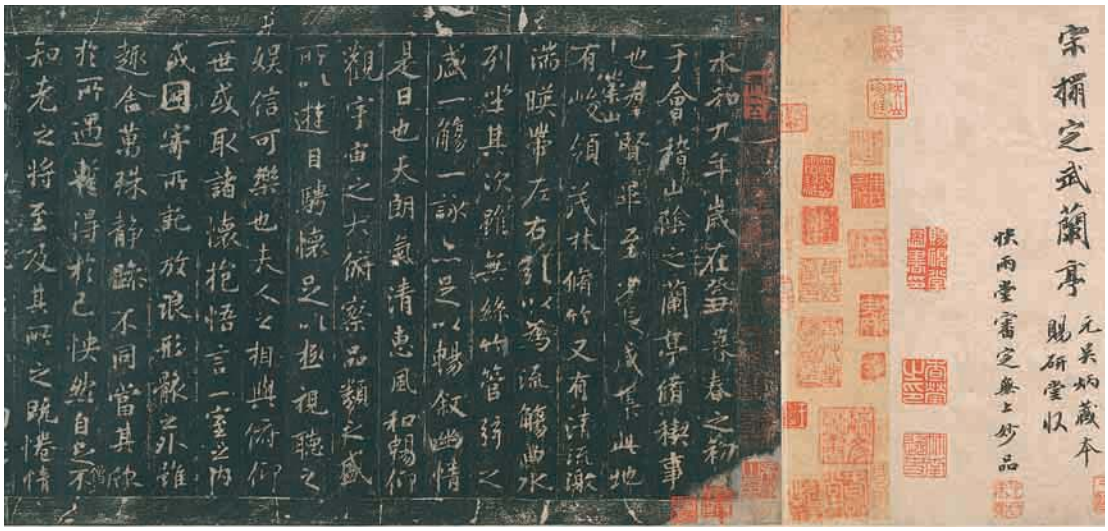
皇帝が熱愛した王羲之の最高傑作
特集陳列「蘭亭序」

3月4日(火)～5月6日(火・休)

永和九年(三五三)暮春の初め、王羲之(おうぎし)は会稽山陰(浙江省)の蘭亭に名士を招いて詩会を催しました。この詩会の序文を王羲之が揮毫しました。これが王羲之の最高傑作として知られる蘭亭序(らんていじょ)です。

蘭亭序を熱愛した唐の太宗皇帝は、崩御に際して蘭亭序を陪葬させたため、蘭亭序の原本は存在しません。太宗が生前に作らせた摸本や拓本は、これを元に次々と拓本が作られ、宋時代には夥しい拓本がありました。蘭亭信仰とでも言うべき状況の中で作られた蘭亭序の各種の拓本とともに、さまざまな形でその影響を受けた歴代の作例を陳列いたします。王羲之の傑作の残影が後世に与えた奥深い影響の一端を、どうぞご高覧ください。

(富田淳)



呉炳本蘭亭序　王羲之筆　原本：東晋時代・永和9年(353)
高島菊次郎氏寄贈　かつて元時代の呉炳が所蔵したので、呉炳本と称される。「湍流帶右天」の5字を欠損する前の、5字未損本。

気になるこの部屋・この作品

本館1室　仏教の興隆

地の神を鎮め、寺が永く息災であることを祈る

国宝 興福寺鎮壇具

3月4日(火)～4月13日(日)

鎮壇とは堂塔などの建物を築くときに地の神を鎮め、それが永く、息災であることを祈念して、地中に宝物や穀物など埋納する祭事です。そのとき埋納した品々が鎮壇具で、興福寺の鎮壇具は中金堂から明治七年(一八七四)に発見されました。古代仏教の鎮壇の方法は詳しくは分かりませんが、『仏説陀羅尼集経』には建物の四隅と中央に深さ三〇センチほどの穴を掘り、そこに金、銀、真珠、琥珀、水晶、琉璃などの七宝、そして大麦、小麦、稲、小豆、胡麻の五穀を埋めると記されています。興福寺鎮壇具にはそうした七宝が含まれ、また金銅盤には穀物を置いたと思われる跡が残り、それに近い鎮壇の方法がとられたことが窺われます。古代の寺院の鎮壇具は川原寺、東大寺金堂など何例か発見されていますが、興福寺のものは総数で一四〇〇点あまりにも達しています。鎮壇具としてこれほど大量に埋納された例は他になく、古代寺院の地鎮を知る重要な遺品といえます。

(原田一敏)

◉興福寺鎮壇具
奈良市興福寺中金堂須弥壇下出土
奈良時代・8世紀　総数1400点余り

本館2室　国宝室

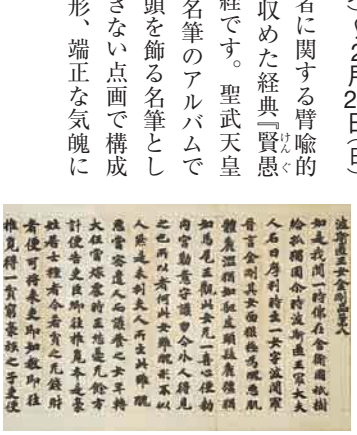
古筆手鑑の冒頭を飾る名筆

国宝 賢愚経断簡(大聖武) 伝聖武天皇筆

1月29日(火)～2月24日(日)

これは、賢者愚者に関する譬喩的な説話六十九篇を収めた経典『賢愚経』を書写した写経です。聖武天皇の筆と伝称され、名筆のアルバムである古筆手鑑の冒頭を飾る名筆として著名です。揺るぎない点画で構成された大ぶりな字形、端正な気魄に満ちた量感溢れる筆致で書写されています。注意深く観察すると何筆か筆を重ねて形を作った様子も窺えます。その書風は、中国北魏の「始平公造像記」などに酷似し、舶載の写経、あるいは帰化人の書写の説もあります。「大聖武」の名は伝称筆者聖武天皇にちなんだものです。

(島谷弘幸)



◉賢愚経断簡(大聖武)(巻頭)
伝聖武天皇筆　奈良時代・8世紀

本館2室　国宝室

密教の高僧の像

国宝 善無畏像

2月26日(火)～3月23日(日)

この画像は、インド・中国・日本にわたる、天台宗に関係する高僧を描いた十幅一組のうちの一幅です。こうした高僧像の制作は中国に先例があり、日本では、円仁の時に始められたといわれています。円仁は真言宗に対抗して天台宗の密教化を進めた人物です。この図の組み合わせの中に、本来、天台宗とは直接関係がない、密教の高僧・善無畏が入っているのは、密教面の正当性を示そうとしたのかもしれません。おおらかにデフォルメされた人物の造形や、穏やかな彩色の画面作りが印象的な一幅です。

(沖松健次郎)

◉聖徳太子及び天台高僧像のうち　善無畏像　平安時代・11世紀　兵庫・一乗寺蔵　この時代の仏画特有の白を主調とした色彩が美しい毘沙門天像(画面左下)

本館1室　仏教の興隆

木心乾漆像の代表的作例

重文 日光菩薩坐像

1月22日(火)～4月13日(日)

もとは高山寺薬師如来像に随侍していた像です。共に随侍していた月光菩薩は現在東京芸術大学にあります。この三尊はさらに古くは京都府亀岡市の金輪寺にありました。木で大まかな形を造り、漆と木の粉を混ぜ合わせた木屎漆で塑形する木心乾漆造りで造られます。左腕欠損部を見ると、技法がよくわかります。この技法は八世紀後半を中心に用いられましたが、この像は八世紀末頃の製作と考えられます。端正な顔つき、丁寧に表わされた髪筋、写実的な衣皺などは、この像が当時の官営工房の正統的な作品であることを物語っています。

(丸山士郎)

◎日光菩薩坐像　奈良時代・8世紀

本館7室　屏風と襖絵

玄宗皇帝と楊貴妃の悲恋

長恨歌図屏風

2月5日(火)～3月16日(日)

中国唐代の詩人白楽天の長編叙事詩、長恨歌は古く日本にも伝わり、日本文学にふれた人であれば、誰もが知る悲恋の物語です。玄宗皇帝は美女、楊貴妃にのめり込み、その縁者は高位に取りあげられ政治は乱れ、反乱が起こります。宮殿を逃げ出した玄宗は、兵たちをなだめるために、泣く泣く楊貴妃に死を賜ります。そして彼女の死を悲しむ玄宗は、その魂を探し求めます。さまざまな装飾が施された金箔の雲によって、二人の物語はいっそう幻想的なものとなっています。

(松嶋雅人)

長恨歌図屏風(部分)　江戸時代・17世紀
王は顔を掩うばかりで、妃を救うこともできず、ふり返る目からは血の涙が流れる

本館18室　近代美術

能に題材をとった法師の物語
重文 弱法師 下村観山筆

3月4日(火)～4月13日(日)

讒言(ざんげん)によって父高安通俊(たかやすみちとし)から追放された俊徳丸(しゅんとくまる)は、悲しみのあまり光を失い、天王寺辺りを放浪し、弱法師(よろぼし)といわれていました。袖の上に舞い落ちる梅の花びらの香りを感じながら、記憶に映る光景を眺め、極楽浄土の東門と向かい合う四天王寺の西門で夕日に向かい拝します。梅樹、卒塔婆(そとば)、日輪そして俊徳丸の限られたモチーフが、背景の金地の抽象性と相まって、見るものをいっそう夢幻の世界へ引き込みます。海に沈む日輪と弱法師を大胆に対比させて、金の光が和やかに俊徳丸を照らし出します。

(松嶋雅人)

◎**弱法師**　下村観山筆
大正4年(1915)
能舞台を思わせる
夢幻の世界

本館13室　陶磁

掌にすっぽりと収まる楽茶碗
黒楽茶碗 銘尼寺　長次郎

1月2日(水)～3月30日(日)

千利休(一五二二～九一)はみずからが求める理想の茶のために陶工長次郎を指導して茶碗を焼かせます。楽茶碗の誕生です。轆轤(ろくろ)を用いず手(て)捏(こ)ねで形作られ、ヘラで削られたのち、内窯とよばれる小規模な窯を用い、黒楽茶碗の場合一碗ずつ焼成されます。徹底的な一品制作により生み出された茶碗なのです。自然な起伏をもち、掌にすっぽりと収まる形、艶のない釉調は、視覚ばかりでなく触覚にも強く訴えかけます。小ぶりな茶碗でありながら、無限の深さを感じさせる造形は、長次郎独自のものです。

(今井敦)

黒楽茶碗　銘尼寺　長次郎　安土桃山時代・16世紀　松永安左エ門氏寄贈
ぜひ、さまざまな角度からご覧ください

東洋館第10室　朝鮮考古

高麗時代の生活容器
象嵌瓶

2月13日(水)～8月31日(日)

高麗時代といえば、翡色や象嵌など、さまざまな技法の美しい青磁が知られていますが、三国時代以来の土器も生活用の容器として引き続き焼き続けられ、その伝統は現代にまでつながっています。

この瓶は、灰色に焼き締められ、肩には灰釉がまばらにかかっていますが、胴体には青磁をまねた象嵌技法が施されています。草花文のスタンプをたくさん押して、くぼみに黒土を埋め込み、乾燥させてから表面を粗く削りだしているのです。陶工の、青磁に対する憧れが表現されているのでしょうか。

(白井克也)

象嵌瓶　高麗時代・13～14世紀
青磁の象嵌技法をまねて作られています

法隆寺宝物館第6室

唐代法華経の貴重な作例
国宝 細字法華経

2月26日(火)～3月23日(日)

淡い墨界(罫線)を施した麻紙三十九枚に、鳩摩羅什(くまらじゅう)訳の法華経を書写した巻子です。本来は七巻の分量になるものですが、小さな楷書で一紙に五十六行、一行に三十二字ずつ書写して、一巻に仕立ています。文字は謹直な書き出しで、次第に行意を帯びるようになり、巻末の則天文字を交えた識語から、長寿三年(六九四)に李元恵という人物が揚州で書写したことが判明します。中国の写経の中でもこのような細字経は珍しく、撥型の鍍金軸には碧玉が嵌め込まれ、書写年代と著者の判明する完本法華経として、きわめて貴重な作例です。

(富田淳)

◉**細字法華経**(巻末)　李元恵筆
中国 唐時代・長寿3年(694)
巻末には「長寿三年六月一日抄訖　写経人雍州長安県人李元恵於楊州敬告此経」の奥書がある

平成館考古展示室

絵画的装飾が施された陶棺
岡山県美作市平福出土

6月1日(日)まで展示

陶棺は、粘土を焼いて作った棺で、古墳時代後期に、近畿地方と岡山県を中心に分布しています。本例は身と蓋に分かれ、それぞれ二分割して作られています。身には円筒形の脚が三列に計二十四個つき、蓋は切妻の屋根形に作っています。この陶棺の特徴は、なんといっても、身の一側面に絵画的装飾があることです。中央に一人の人物が立ち、両側には人物に手綱をひかれる馬が表されています。下からは蕾(つぼみ)状のものが二本立ち上がり、上方の波形は山並みを表しているのかもしれません。これらが何を意味しているのかはわかっていません。

(望月幹夫)

陶棺　岡山県美作市平福出土
古墳(飛鳥)時代・7世紀　長さ175cm
身の一側面に人馬などを表した、
他に例のない珍しい陶棺

東洋館の平常展

緩やかな勾配の切妻屋根、正面の列柱が印象的な東洋館。中国、西域、朝鮮半島、東南アジア、インド、西アジア、エジプトなど東洋諸地域の美術と考古遺物を展示しています。東京国立博物館は定期的に展示替を行なっているため、新たな作品との出会いや作品との久々の対面などをお楽しみいただけますが、いつ来館しても会える作品もいくつかあります。今回は東洋館で皆さんをお待ちしている作品から選んでご紹介いたしましょう。

※原則として通年展示されていますが、他館への貸出し、他室での展示など東洋館でご覧になれない場合もあります。

1月28日(月)～2月12日(火)まで
東洋館は展示環境改善のため休館いたします

東洋館第3室　東南アジア考古

牛付銅製腕輪

牛付銅製腕輪　前300年～後300年頃
直径4.5cmの小さな腕輪。子供用と考えられます

タイ北部バンチェン遺跡で発掘された2000年前の墓地から、青銅製腕輪をつけた人骨が数多く出土しました。なかには、二の腕から手首まで腕輪をぎっしりと連ねた埋葬例も見つかりました。当時の人々にとって、腕輪は特別な意味をもっていたのでしょう。

この青銅製腕輪もバンチェン地方の出土と推定されます。切れ目を挟んで、立派な角の牛が対峙しています。小型で複雑なその造形は、インド・中国の両文明圏に挟まれた東南アジアでも、高度な技術の青銅器文化が栄えたことを物語っています。　（川村佳男）

東洋館第3室　西アジア・エジプト考古美術

眼の偶像

眼の偶像　シリア出土　前4千年紀後半　古澤静子氏寄贈

目玉と眉(まゆ)だけを強調した特徴的な人物像です。これらは単式・二連式の2例ですが、他に3連式、親子式など、帽子か冠を載せた例もあります。この種の小像が最も多く出土したのはシリア北部のテル・ブラクで、面積が43ヘクタール、高さ45メートルもある巨大な都市遺跡です。英国の調査隊が発見した建物の一つでは、基壇に数千個の「眼の偶像」が埋められていたため、「眼の神殿」のニックネームがつけられました。当館の「眼の偶像」もこの神殿に捧げられていたものでしょう。　（後藤 健）

東洋館第6室・第7室　画像石

画像石

画像石　後漢時代・1～2世紀
山東省長清県発見
かまどで食物を蒸しています。
壁には鳥や魚が吊り下げられています

東洋館では古代中国の画像石を15件常設展示しています。今回紹介するのは、3個の石材をコの字形に組み立てたもので、死者をまつる石造の建物の一部です。壁には、当時の生活の情景や神話・伝説の一場面など、さまざまな画像が彫り込まれています。写真で示したのは台所を描いた図の一部です。生前の裕福な生活を回顧したものとも、死後の世界で食事に困らないように彫り込んだものとも考えられます。画像石からは、現代の考古学でもなかなか判らない当時の人々の生活のありさまを見て取ることができます。　（谷 豊信）

東洋館第5室　中国考古

揺銭樹

左：**揺銭樹**　後漢時代・1～2世紀
高さ123cmの「お金のなる木」

下：同（部分）
上の枝は銅銭、西王母などを飾り、
下の枝は全体で龍を象っています

東洋館に「お金のなる木」が展示されているのをご存知でしょうか。その名も揺銭樹(ようせんじゅ)。青銅でできた組み立て式の木が、枝を四方に伸ばしています。この枝をよく見ますと、四角い孔をもつ円形が沢山ついています。これは中国の典型的な銅銭の形です。枝には他にも龍、鳳凰、西王母(せいおうぼ)など天界の動物や神仙が飾られています。揺銭樹は後漢時代（1～3世紀）のお墓に副葬されました。そのため、死後の生活にも富をもたらすおめでたい木、あるいは死者の魂を天界へと導く木だったと考えられています。　（川村佳男）

平成19年度 東京芸術大学学生 ボランティアによるギャラリートーク

東京国立博物館では、来館者に提供する学習機会の増大と、当館と東京芸術大学との連携を図るため、平成15年度から「東京芸術大学学生によるギャラリートーク」を開始しました。この事業は、将来、美術館・博物館等で学芸員として働くことに関心のある学生に対し、博物館での実地研修の意味あいももつものです。展示品についてのバラエティーにとんだギャラリートークが鑑賞のお役に立てば幸いです。

①近代工芸美術 ――鋳金家たちの「生き方革命」――

解説者：河内田絵美
美術研究科芸術学専攻（工芸史）
日　時：1月13日(日)、20日(日)、2月17日(日)、24日(日)、3月9日(日)　各回15:30～
場　所：本館19室（本館エントランス集合）

②雪舟筆「秋冬山水図」――伝統からの逸脱――

解説者：和田千春
美術研究科芸術学専攻（日本・東洋美術史）
日　時：1月17日(木)、19日(土)、23日(水)、24日(木)、27日(日)　各回15:30～
場　所：本館2室（本館エントランス集合）

③津田信夫「白熊置物」 ――『置物』に対する眼差し――

解説者：野澤広紀
美術研究科芸術学専攻（日本・東洋美術史）
日　時：1月25日(金)、2月1日(金)、8日(金)、9日(土)、11日(月・祝)　各回15:30～
場　所：本館19室（本館エントランス集合）

④浅井忠「春畝」――浅井忠と近代洋画の春――

解説者：永松左知
美術研究科芸術学専攻（日本・東洋美術史）
日　時：1月31日(木)、2月3日(日)、7日(木)、10日(日)、14日(木)　各回15:30～
場　所：本館18室（本館エントランス集合）

⑤国宝・興福寺金堂鎮壇具 ――史上最高の土地鎮めの宝物――

解説者：長久智子
美術研究科芸術学専攻（工芸史）
日　時：2月6日(水)、15日(金)、20日(水)、22日(金)、27日(水)　各回15:30～
場　所：本館1室（本館エントランス集合）

※2月26日(火)から表慶館「体験の間」で展示する「押出仏」(原品 法隆寺献納宝物)の制作工程模型の作製から得られた知見を、模型を前にご紹介するギャラリートークを予定しています。

みどりのライオン

表慶館 体験の間 ハンズオン体験コーナー「わたしの鏡」

1月16日(水)～4月20日(日) [11:00～16:00]

本館8室の暮らしの調度のコーナーにはたくさんの銅鏡が展示されています。これに関連して行なうハンズオン体験コーナー「わたしの鏡」では、風景や花鳥など、展示されている鏡に表わされた文様のスタンプを使って、鏡をデザインすることができます。ぜひ、できあがった自分だけのオリジナル鏡を持って、展示室の鏡とくらべてみてください。よく知っているはずの鏡が、今日からもっと親しみのあるものに思えてくるかもしれません。

富士薄名月柄鏡　江戸時代・17～18世紀

表慶館 創作の間「こどもたちのアートスタジオ」

当館生涯学習ボランティアによるワークショップを開催いたします。
会場　表慶館みどりのライオン「創作の間」　**各日** 13:30～15:30
事前申込制　**参加費無料**（ただし当日の保護者の入館料は必要）

2月17日(日)「根付作り」	本館10室にある根付を見学した後に、粘土を加工してオリジナル根付を制作します。
3月23日(日)「勾玉作り」	平成館考古展示室にある勾玉を見学した後に、滑石を削ってオリジナル勾玉を制作します。

対象：小学校3年生から高校生　※保護者の方の見学も可能です
定員：各日10名程度。
申込方法：往復はがきの「往信用裏面」に、希望コースと日程、郵便番号・住所・参加される方の氏名（ふりがな）、学年、電話番号、保護者がご一緒の場合はその人数を、「返信用表面」に、返信先の郵便番号、住所、氏名を明記し下記までお申込下さい。
締切：「根付作り」2月4日(月)必着、「勾玉作り」3月10日(月)必着
※締切の後、参加券をお送りします。なお、応募多数の場合は抽選とさせていただきます。
申込先：〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9
東京国立博物館ボランティア室

月例講演会

「ときめきをもたらすもの」

宮田亮平（東京藝術大学長）　2月9日(土) 13:30～15:00（開場13:00）
鍛金を専門とする金工作家として、これまでの半生と作品について語っていただきます。

「明治初期美術界への外来の風 ――フォンタネージ、ラグーザとその周辺」

山梨絵美子（東京文化財研究所企画情報部文化財アーカイブズ研究室長）
3月1日(土) 13:30～15:00（開場13:00）
特集陳列「OYATOI――フォンタネージとラグーザ」（2月5日～3月16日）に関連した講演会です。

会場：平成館大講堂　**定員**：380名（当日先着順）
聴講無料（ただし当日の入館料は必要）

INFORMATION

イベント開催のお知らせ

高田泰治　フォルテピアノリサイタル

＃夜の法隆寺宝物館で聴く 期待の新人・高田泰治のフォルテピアノ＃

日時　2月29日(金)　19:00開演　18:30開場
場所　東京国立博物館　法隆寺宝物館エントランスホール
出演　高田泰治(フォルテピアノ)
曲目　ハイドン：3つのソナタ
　　モーツァルト：幻想曲　ニ短調　K.397(385g)　ほか
料金　3,500円　全席自由　※友の会・キャンパスメンバーズ割引 2,500円
主催　東京国立博物館／日本テレマン協会

クラリネットとピアノのデュオコンサート

＃クラリネットとピアノが誘う　サクラ待つ春の歓び＃

日時　3月20日(木・祝)　15:00開演　14:30開場
場所　東京国立博物館　平成館ラウンジ
出演　ロマン・ギュイオ(クラリネット)／中島由紀(ピアノ)
曲目　ショーソン：アンダンテとアレグロ
　　ガーシュイン：ラプソディ・イン・ブルー　ほか
料金　4,500円　全席自由　※友の会・キャンパスメンバーズ割引 3,000円
主催　東京国立博物館／サロン・ド・ソネット

チケットのお求め方法

- **当館正門観覧券売場でのチケット販売**
  受付　開館日の9:30～16:30(月曜休館)
- **電話予約販売**
  お申込先：東京国立博物館イベント担当　TEL 03-3821-9270
  受付時間：月曜日～金曜日9:30～16:30(祝日は除く)
  チケット引換：コンサート当日9:30より正門観覧券売場にて現金引換
  ※各イベント詳細は、当館ホームページでご確認ください。
  ※お車でのご来館はご遠慮ください。

東京のオペラの森
NOMORIイベント・ウィーク　ミュージアムコンサート

今年で4回目。東京の春の訪れを音楽とともに祝う「東京のオペラの森2008 NOMORI　イベント・ウィーク」。春の訪れを博物館で感じてみませんか。

①佐藤美枝子　ソプラノ・リサイタル～チャイコフスキーの歌曲を集めて～

日時　3月21日(金)　19:00開演　18:15開場
場所　東京国立博物館　平成館ラウンジ
出演　佐藤美枝子(ソプラノ)／河原忠之(ピアノ)
料金　3,000円　全席自由　※平常展観覧券付き

②若林顕　ピアノ・リサイタル～チャイコフスキーとラフマニノフの描いた情景～

日時　3月22日(土)　14:00開演　13:15開場
場所　東京国立博物館　平成館ラウンジ
出演　若林顕(ピアノ)
料金　3,000円　全席自由　※当日の平常展をご覧いただけます

③江口玲　ピアノ・リサイタル～チャイコフスキーと彼にまつわる名曲を集めて～

日時　3月23日(日)　14:00開演　13:15開場
場所　東京国立博物館　平成館ラウンジ
出演　江口玲(ピアノ)
料金　3,000円　全席自由　※当日の平常展をご覧いただけます

④木管の調べ in 本館エントランスホール

エントランスの華やか空間で、木管の美しい響きをお楽しみ頂きます。
日時　3月16日(日)　①13:00　②15:00(各回20分程度)
場所　東京国立博物館　本館エントランスホール
出演　木管トリオ
料金　無料(当日の平常展観覧料は必要)

⑤トーク・イベント『チャイコフスキー～その生涯～』

チャイコフスキーの生涯とバレエ音楽の魅力をあらゆる角度からひもときます。
日時　3月8日(土)　14:00開演　13:30開場
場所　東京国立博物館　平成館大講堂
出演　ひのまどか(音楽作家)／ゲスト：田中祐子(バレリーナ)
料金　無料(事前応募制／当日の平常展観覧料は必要)

主催　東京のオペラの森実行委員会　ほか
共催　東京国立博物館
お問い合わせ　東京のオペラの森
　　TEL 03-3296-0600　URL http://www.tokyo-opera-nomori.com
※「東京のオペラの森2008　NOMORI　イベント・ウィーク」のチケットは東京国立博物館(窓口のみ)、東京のオペラの森、東京文化会館チケットサービスほか、各種プレイガイドで販売。

チケットプレゼントのお知らせ

◆平城遷都1300年記念「国宝　薬師寺展」

本誌6ページで紹介した「国宝　薬師寺展」の招待券を抽選で10組20名様にプレゼントいたします。締め切りは3月12日(水)必着。

※プレゼントの応募方法

はがきに、チケットを希望する展覧会名、住所、氏名(ふりがな)、男女、年齢、職業、この号でいちばんおもしろかった企画をご記入のうえ、下記までお送りください。発表は発送をもって替えさせていただきます。
〒110-8712　台東区上野公園13-9　東京国立博物館
　　広報室「ニュース2・3月号」プレゼント係

◆ 東京国立博物館賛助会員募集のご案内

東京国立博物館では賛助会員制度を設け、当館の活動を幅広くご支援いただいております。賛助会員よりいただいた会費は、文化財の購入・修理、調査研究・平常展・施設整備等の充実にあてております。どうか賛助会の趣旨にご理解ご賛同いただき、ご入会くださいますようお願い申し上げます。

入会日より1年(入会月の翌年同月末日まで)有効。賛助会員には、特別会員と維持会員との2種類があります。

年会費
　特別会員　100万円以上
　維持会員　法人　20万円
　　個人　5万円

主な特典
- 特別展の内覧会にご招待
- 東京国立博物館ニュースの送付

＊賛助会員のお申し込みは随時受け付けています。
＊お問い合わせ
東京国立博物館営業開発部 賛助会担当　TEL 03-3822-1111(代)

東京国立博物館賛助会員　2007年12月4日現在

特別会員
日本電設工業株式会社 様
東京電力株式会社 様
株式会社コア 様
株式会社 精養軒 様
毎日新聞社 様
大日本印刷株式会社 様
株式会社 大林組 東京本社 様
朝日新聞社 様
株式会社 ホテルオークラエンタープライズ 様
株式会社 ミロク情報サービス 様
TBS 様
読売新聞東京本社 様
三菱商事株式会社 様
凸版印刷株式会社 様
ブルガリジャパン株式会社 様

維持会員
三菱電機ビルテクノサービス株式会社 様
早乙女 節子 様
株式会社 三冷社 様
宇津野 和俊 様
伊藤 信彦 様
井上 萬里子 様
京菓匠 鶴屋吉信 様
株式会社 東京美術 様
服部 禮次郎 様
薮内 匡人 様
岩沢 重美 様
高田 朝子 様
齋藤 京子 様
齋藤 邦裕 様
株式会社 安井建築設計事務所 様
株式会社 ナガホリ 様
佐々木 芳絵 様
藤原 紀男 様
小田 昌夫 様
吉岡 昌子 様
松本建設株式会社 様
関谷 徳衛 様
高橋 守 様
小澤 桂一 様
上久保 のり子 様
櫛田 良豊 様
株式会社 スタイルカフェ・ドット・ネット 様
長谷川 英樹 様
池田 孝一 様
木村 剛 様
観世 あすか 様
コクヨファニチャー株式会社 様
星埜 由尚 様
株式会社 鴻池組 東京本店 様
株式会社 アクタス 様
安田 敬輔 様
久保 順子 様
渡辺 章 様
稲垣 哲行 様
堀江 磨紀子 様
帖佐 誠 様
株式会社 古美術藪本 様
飯岡 雄一 様
髙瀬 正樹 様
坂井 俊彦 様
寺浦 信之 様
高木 美華子 様
暁飯島工業株式会社 様
山岡 ユウ子 様
古屋 光夫 様
根田 穂美子 様
松本 澄子 様
鷲塚 泰光 様
是常 博 様
上野 孝一 様
北山 喜立 様
謙慎書道会 様
社団法人 全国学校栄養士協議会 様
山田 泰子 様
原 桃介 様
近代書道研究所 様
田村 久雄 様
日本畜産興業株式会社 様
株式会社秋華洞 様
髙橋 徹 様
栄田 陸子 様
絹村 安代 様
髙橋 良守 様
岡田 博子 様
臼井 生三 様
津久井 秀郎 様
藤倉 光夫 様
神通 豊 様
永久 幸範 様
五十嵐 良和 様
石川 公子 様
池田 慶子 様
株式会社 東京書芸館 様
青山 千代 様
藤崎 英喜 様
永田 実香 様
西岡 康宏 様
小川 徳男 様
友景 紀子 様
東野 治之 様
辻 泰二 様
竹下 佳宏 様
松原 聡 様
町田 昇 様
シチズンホールディングス株式会社 様
野澤 智子 様
有賀 浩治 様
吉田 幸弘 様
野崎 弘 様
坂田 浩一 様
池谷 正夫 様
池谷 徳雄 様
脇 素一郎 様
秦 芳彦 様
宇田 左近 様
木谷 騏巳郎 様
木村 茂直 様
杉原 健 様
インフォコム株式会社 様
渡久地 ツル子 様
汐崎 浩正 様
関 哲夫 様
堤 勝代 様
山下 由紀子 様
平井 千惠子 様
〈ほか37名3社、順不同〉

東京国立博物館友の会&パスポート

友の会 年会費　1万円　発行日から1年間有効

特典　東京・京都・奈良・九州国立博物館4館の平常展は何度でもご覧いただけます。特別展に関しては、観覧券を12枚配布。そのほか、本誌の定期郵送などさまざまな特典があります。

パスポート 一般 4,000円　学生 2,500円

発行日から1年間有効

特典　東京・京都・奈良・九州国立博物館4館の平常展は何度でも、お好きな6つの特別展を1回ずつ計6回までご覧いただけます。

◆お申し込みは当館の窓口あるいは郵便振替で

友の会

加入者名(振替先)東京国立博物館友の会
口座番号00160-6-406616
＊振替用紙には職業・年齢・性別を楷書でご記入ください。

パスポート

加入者名(振替先)東京国立博物館パスポート
口座番号00140-1-668060
＊振替用紙には申込区分(一般か学生)、学生の場合は学校名および学生証番号を楷書でご記入のうえ、生徒手帳か学生証のコピーを郵送またはFAXでお送りください。
＊振替用紙の半券が領収書になります。会員証、パスポートチケットが届くまで保管しておいてください。
＊振替手数料はお客様の負担となります。
＊郵便振替でのお申し込みには2週間かかります。

◆問い合わせ
TEL 03-3822-1111(代)　友の会・パスポート担当
FAX 03-3821-9680

東京国立博物館ニュース定期郵送のご案内

本誌の定期購読をご希望の方は、年間(6冊分)1,000円の送料・事務費のご負担でご自宅にお届けします。

◆お申し込みは郵便振替で

加入者名(振替先)東京国立博物館ニュース
口座番号00100-2-388101
＊振替用紙には郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・電話番号を楷書でご記入ください。
＊振替用紙の半券が送料の領収書になります。1年間保管しておいてください。
＊振替手数料はお客様のご負担となります。
＊次号より送付ご希望の場合、締切は3月10日です。

東京国立博物館利用案内

開館時間　9:30～17:00、2008年3月28日から11月の特別展開催期間中の金曜日は20:00まで、2008年3月29日～9月の土・日・祝・休日は18:00まで。
(入館は閉館の30分前まで)

休館日　毎週月曜日(祝日、休日の場合は翌日)、年末年始(12月28日～1月1日)。2008年4月28日(月)、5月5日(月・祝)は開館し、5月7日(水)休館、6月24日(火)は臨時休館。8月11日(月)は閉館。

平常展観覧料金
一般600(500)円、大学生400(300)円
＊(　)内は20名以上の団体料金。
＊障害者とその介護者1名は無料です。入館の際に障害者手帳などをご提示ください。
＊満70歳以上、および高校生以下の方の平常展観覧は無料です。入館の際に年齢のわかるもの(生徒手帳、健康保険証、運転免許証など)をご提示ください。

＊講演会、ワークショップ、友の会・パスポートおよび本誌定期郵送等のお申し込みに際してご提供いただいた個人情報に関しては、当該の目的にのみ使用させていただくものです。当館では個人情報に関する法令を遵守し、適正な管理・利用と保障に万全を尽くします。

TOPICS

◆2007年11月17日「留学生の日」大賑わいでした

今回で五年目になる「留学生の日」は、日本で学ぶ外国人留学生の方々に、日本と東洋の美術に触れていただくため、東京国立博物館の平常展を無料でごらんいただくほか各種イベントも開催しています。

初年には四八〇名でしたが、年毎に増加し、今年は約千名の留学生の方においでいただきました。

表慶館で二回行なわれた「留学生の日スペシャルプログラム　アダチ伝統木版画技術保存財団による浮世絵摺り実演」では、多くの留学生が摺師の手先の動きに、熱心に見入っていました。完成した浮世絵「冨嶽三十六景　神奈川沖浪裏」が、版木からひらりとはがされて、姿をあらわした瞬間「おおーっ」と歓声があがり、拍手が起こりました。

◆今年度の「新日本様式」一〇〇選に、法隆寺宝物館が選ばれました

「新日本様式」は、グローバル化の中で、新たな日本ブランドを定着させるための経済産業省の取り組みです。その選定の視点は「伝統文化と先端技術の融合」「伝統文化を現代のライフスタイルに生かす」というもので、「伝統文化」がキーワードになっています。昨年度の第一回選定では五十三点、今年度は六十三点が選ばれました。

法隆寺宝物館で展示されている法隆寺献納宝物は、奈良の正倉院宝物と並ぶ古代美術の宝庫として知られていますが、正倉院宝物よりさらに古い七世紀の美術品が数多く含まれているのが特色です。「新日本様式」に選ばれた建物は、谷口吉生氏の設計により、平成十一年(一九九九)に開館いたしました。開館時から高く評価され注目を集めてきた建築ですが、このたびあらたなる名誉が加わったことになります。

「新日本様式」に選定されたもののジャンルは驚くほど多岐に渡り、キヤノン社のデジタルカメラや、株式会社角川書店の劇場用アニメーション「時をかける少女」、また佐渡の能なども今回同時に選定されています。

表慶館二階で二〇〇七年十一月二十七日(火)から十二月二日(日)まで、実物やパネルなどによる展示がありました。ウェブサイトはhttp://www.japanesque-modern.org

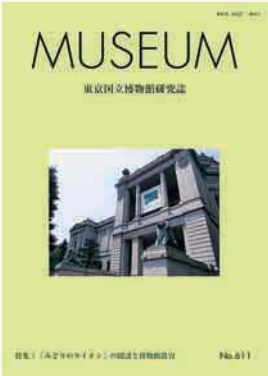
「新日本様式」100選の認定証

◆「第4回　台東区の伝統工芸職人展～見る、そして、体験する。～」のお知らせ

毎年好評の「台東区の伝統工芸職人展」。東京国立博物館のある台東区は、江戸文化が栄えてきた町として知られています。今回は、様々な分野の職人による製作実演に加え、体験コーナーも設置します。下町の歴史と風土の中で育まれ受け継がれてきた、職人の本物の技と手作りのぬくもりをご覧ください。

開催日　2月5日(火)～2月11日(月・祝)
時間　9時30分～17時
会場　表慶館　対話の間・創作の間
主催　台東区
※平常展料金でご覧いただけます。
お問い合わせ　台東区役所産業部経営支援課　電話03-5246-1131

◆MUSEUM611号(平成19年12月15日発行)の掲載論文



①「表慶館「みどりのライオン　みんなで楽しむ教育スペース」の開設について」加島勝(当館教育普及課長)
②「みどりのライオン　教育普及活動について」小林牧(当館教育普及室長)
③「デンバー美術館の教育普及事業――ミュージアム・エデュケーションからビジターズ・エクスペリエンスへ――」鈴木みどり(当館教育普及室主任研究員)
④「博物館における鑑賞補助ツールの役割――「親と子のギャラリー」を例に」藤田千織(当館ボランティア室研究員)
⑤「「子供のための文化史展」について――東京国立博物館の教育普及事業史研究　敗戦直後――」神辺知加(当館教育講座室研究員)

※購読のお問い合わせは中央公論事業出版(電話03-3535-1321)へ。

◆国立博物館の展示案内

〈京都国立博物館〉
特別展覧会「憧れのヨーロッパ陶磁―マイセン・セーヴル・ミントンとの出会い―」1月5日(土)～3月9日(日)
特別展覧会「没後120年記念　河鍋暁斎」(仮称)4月8日(火)～5月11日(日)

〈奈良国立博物館〉
特別陳列「お水取り」2月2日(土)～3月16日(日)
特別展「天馬―シルクロードを翔けた夢の馬―」4月5日(土)～6月1日(日)

〈九州国立博物館〉
特別展「足利義満六百年御忌記念　京都五山　禅の文化」展　1月1日(火・祝)～2月24日(日)
特別展「国宝　大絵巻展」(仮称)3月22日(土)～6月1日(日)

表紙　◉**花下遊楽図屏風**(部分)狩野長信筆　安土桃山～江戸時代・17世紀(本誌4ページ参照)

東京国立博物館2月・3月の展示・催し物

2008年 2月

1	FRI	15:00 「津田信夫『白熊置物』」15:30 本館19室
2	SAT	記念講演会「近衛家・陽明文庫について」13:30 平成館大講堂＊1 13:30 14:00 15:00
3	SUN	14:00 14:30 「浅井忠『春畝』」15:30 本館18室
4	MON	休館日
5	TUE	台東区伝統工芸職人展
6	WED	14:00 14:30 「国宝・興福寺金堂鎮壇具」15:30 本館1室
7	THU	14:00 「浅井忠『春畝』」15:30 本館18室
8	FRI	14:30 15:00 「津田信夫『白熊置物』」15:30 本館19室
9	SAT	月例講演会「ときめきをもたらすもの」13:30 平成館大講堂＊2 14:00 14:30 15:00 「津田信夫『白熊置物』」15:30 本館19室
10	SUN	14:00 「浅井忠『春畝』」15:30 本館18室
11	MON	台東区伝統工芸職人展 「津田信夫『白熊置物』」15:30 本館19室
12	TUE	休館日
13	WED	列品解説「臨床保存学のすすめ」14:00 本館17室 14:30 14:00
14	THU	14:00 14:00 14:30 「浅井忠『春畝』」15:30 本館18室
15	FRI	15:00 「国宝・興福寺金堂鎮壇具」15:30 本館1室
16	SAT	座談会「文化財を運ぶ」13:30 平成館大講堂 13:30 14:00 15:00
17	SUN	12:30,14:00 13:30 14:30 「近代工芸美術」15:30 本館19室
18	MON	休館日
19	TUE	列品解説「山本達郎氏寄贈の東南アジア彫刻コレクション」14:00 東洋館第3室
20	WED	見学ツアー「保存と修理の現場へ行こう」13:30＊3 14:00 14:30 「国宝・興福寺金堂鎮壇具」15:30 本館1室
21	THU	見学ツアー「保存と修理の現場へ行こう」13:30＊3 14:00
22	FRI	14:30 15:00 「国宝・興福寺金堂鎮壇具」15:30 本館1室
23	SAT	14:00 14:30 15:00
24	SUN	宮廷のみやび 14:00 14:00 「近代工芸美術」15:30 本館19室
25	MON	休館日
26	TUE	列品解説「光と展示・保存・調査」14:00 平成館企画展示室
27	WED	14:00 14:30 14:00 「国宝・興福寺金堂鎮壇具」15:30 本館1室
28	THU	14:00 14:30
29	FRI	高田泰治フォルテピアノリサイタル 19:00 法隆寺宝物館エントランス＊4 15:00

2008年 3月

1	SAT	月例講演会「明治初期美術界への外来の風―フォンタネージ、ラグーザとその周辺」13:30 平成館大講堂＊2 13:30 14:00 15:00
2	SUN	14:00 14:30
3	MON	休館日
4	TUE	列品解説「臨床保存における修理の位置付け」14:00 平成館企画展示室
5	WED	14:00 14:30
6	THU	14:00
7	FRI	15:00
8	SAT	トーク・イベント『チャイコフスキー～その生涯～』14:00 平成館大講堂＊5 14:00 14:30 15:00
9	SUN	14:00 「近代工芸美術」15:30 本館19室
10	MON	休館日
11	TUE	列品解説「埴輪・土器の解体処理と調査」14:00 平成館企画展示室
12	WED	14:30 14:00
13	THU	14:00 14:00 14:30
14	FRI	14:30 15:00
15	SAT	春の庭園開放 13:30 14:00 15:00
16	SUN	木管の調べ 13:00,15:00 本館エントランスホール＊6 12:30,14:00 14:30
17	MON	休館日
18	TUE	列品解説「博物館の環境を調べる」14:00 平成館企画展示室
19	WED	14:00 14:30
20	THU	クラリネットとピアノのデュオコンサート 15:00 平成館ラウンジ＊4 14:00
21	FRI	佐藤美枝子 ソプラノ・リサイタル 19:00 平成館ラウンジ＊4 15:00
22	SAT	若林顕 ピアノ・リサイタル 14:00 平成館ラウンジ＊4 14:00 14:30 15:00
23	SUN	江口玲 ピアノ・リサイタル 14:00 平成館ラウンジ＊4 14:00 13:30
24	MON	休館日
25	TUE	国宝　薬師寺展 列品解説「東京帝室博物館歴史部の変遷」14:00 本館16室 薬師寺展ガイダンス 11:00, 13:00, 15:00 平成館大講堂＊7
26	WED	14:00 14:30 14:00
27	THU	14:00 14:30
28	FRI	夜間開館（20：00まで）　薬師寺展ガイダンス 13:00, 15:00 平成館大講堂＊7 14:30 15:00
29	SAT	時間延長（18：00まで） 14:00 15:00
30	SUN	時間延長（18：00まで） 14:00 14:30
31	MON	休館日

4/20まで 6/8まで

＝ボランティアによる本館ハイライトツアー、集合場所：本館1階エントランス
＝ボランティアによる浮世絵版画展示ガイド、集合場所：本館1階エントランス
＝ボランティアによる陶磁エリアガイド、集合場所：本館1階エントランス
＝ボランティアによる彫刻ガイド、集合場所：本館1階エントランス
＝ボランティアによる樹木ツアー、集合場所：表慶館エントランスホール
＝ボランティアによる考古展示室ガイド、場所：平成館考古展示室入口
＝ボランティアによる法隆寺宝物館ガイド、場所：法隆寺宝物館1階エントランス
＝ボランティアによる応挙館茶会、集合場所：表慶館エントランスホール（一般及び大学生は参加費500円、先着30名、開始1時間前に集合場所で整理券配布）
＝ボランティアによる庭園茶室ツアー、集合場所：表慶館エントランスホール（先着20名、開始30分前に集合場所で整理券配布）
＝ボランティアによる英語ガイド（本館ハイライト）、集合場所：本館1階エントランス
＝「国宝　聖徳太子絵伝」上映10:00 11:00 12:00 14:00 15:00 16:00 各回30名、集合場所：表慶館エントランスホール

＝ボランティアによるこどもたちのアートスタジオ、根付づくりコース（事前予約制、詳細は本誌13ページをご覧下さい。抽選10名）
＝ボランティアによるこどもたちのアートスタジオ、勾玉づくりコース（事前予約制、詳細は本誌13ページをご覧下さい。抽選10名）
＝芸大学生ボランティアによるギャラリートーク（集合場所等詳細は本誌13ページをご覧ください）

＊1事前申込制 申込は締め切りました ＊2詳細は本誌13ページをご覧ください ＊3事前申込制 詳細は本誌7ページをご覧ください ＊4有料イベントです 詳細は本誌14ページをご覧ください ＊5事前申込制 詳細は本誌14ページをご覧ください ＊6無料イベントです 詳細は本誌14ページをご覧ください ＊7詳細は本誌3ページをご覧ください
＊上記の予定は予告なく変更になることがあります。当日の予定はインフォメーションカウンターでご確認ください。
＊屋外で実施するツアー・ガイドは雨天の場合中止することがあります。

東京国立博物館ニュース　第687号　平成20年2月1日発行（隔月1回 偶数月発行）編集／東京国立博物館 広報室
発行／東京国立博物館　〒110-8712 東京都台東区上野公園13-9　TEL 03-3822-1111（代表）　＊ホームページ〈URL〉http://www.tnm.jp/　独立行政法人国立文化財機構ホームページ〈URL〉http://www.nich.go.jp　制作／美術出版デザインセンター
©東京国立博物館